九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

九州大学附属図書館蔵『さころも』：解題と翻刻（三）

閻，紹婕
九州大学大学院人文科学府：博士後期課程

張，愚
九州大学：専門研究員

https://doi.org/10.15017/1916255

出版情報：文獻探究. 55, pp.54-65, 2017-03-31. 文献探究の会
バージョン：
権利関係：

九州大学附属図書館蔵『さころも』解題と翻刻（三）

閻　紹婕・張　愚

凡例

一、九州大学附属図書館蔵『さころも』（細川文庫本）を底本とした。

一、底本の表記通りに翻刻することに努め、漢字、仮名などはすべて原文のままとした。また、不審箇所は底本の通りにし、右脇に（ママ）を付した。

一、底本に施されたミセケチは、原文の左に「〃」を付し、その右に記した。また、補入記号は、「・」で本文中に記載し、その右に補われた語句を示した。

一、各面の配字配行を忠実に再現し、各行末にカギ括弧を付ける。表裏は「オ・ウ」と表示した。

本文

1　おもひわひ侍なはかよわぬさと
2　にゆきかくれなんさやうな
3　らんおりさそかしともおほし
4　いてさせ給へかしとてなとなく
5　なくなんきこえしらせさせ給
6　ことゝもおもひやるへしされ
7　といとちかくしも候はぬ人は
8　いつちもけちかき御ならひに
9　めたゝぬなんめりかしゑみさ
10　ふらはんとて人〳〵いますこし
11　ちかくまいりたれは心ちのれ　」（四七・ウ）
1　いならぬとまきらはしてちゐさ
2　き木丁ひきよせてふさせ給
3　ぬれは君もかほにやしるからん
4　とおほせはゑにまきらはしてた
5　ち給ぬるにみやはおほしつゝ
6　くるにかゝる心のをはしける人
7　をつゆしらてなつかしうたれ
8　よりもおもひてあけくれさし

1 いてにけるをあはれにおほし
2 しられてやかてふしくらし
3 給えるを御めのとたちなと
4 れいならぬ御けしきなる
5 はいかなる事そとあやし
6 かるをたれもかゝるこゝろを
7 みしらぬにかやうにてつね
8 にあらははつかしもあるへ
9 きかなとおほすにありてうき
10 世はとけふそおほししられ
11 ける中将のきみもこといて 」（四八・ウ）

1 そめ給てのちはいとゝしの
2 ひかたきこゝちのみみたれま
3 さり給てつく〳〵となかめふ
4 し給えり殿ゝ御まへよりま
5 いらせ給えとあれはなにとなく
6 心ちのなやましけれとさきこ
7 ゑ給はゝをとろ〳〵しうさ
8 はき給はんもきゝにく

9 むかひてすこしけるよとうと
10 ましうをそろしきにもさるへ
11 き人〳〵の御あたりならてをひ 」（四八・オ）

1 なるうちとけすかたのうる
2 はしきよりもかくてこそ
3 みたてまつるへかりけれとみ
4 ゑてみまほしくなつかしき
5 御ありさまのし給えるを
6 れいのくちもあはせすゑ
7 みひろこりてよさり中宮
8 いてさせ給はんにまいり給へ
9 うゑもあまりひさしうとり
10 こめたりとおほせられたりなと
11 の給て源氏の宮の御ことを 」（四九・ウ）

1 春宮はかく心もとなかす（せ）
2 給にいたうわひさせたてまつる〃
3 うらみさせ給にすゝしうなり
4 てさもやとおもふを右大殿の
5 たゝ一人（三人）かしつかるゝむすめ
6 十にたにならはと心もとなか
7 られけるからうして此八
8 月にまいらせんと御けしき

9 けれはしやうそくしとけ
10 なけにしてまいり給ひんの
11 わたりうちとけてないかしろ 」（四九・オ）

9 とらるゝをせいすへきにあら
10 す又きしろい給はんもひ
11 むなけれは冬つかたさらす 」（五〇・オ）

1 としかへりてなとおもふは
2 いかゝすへからん春宮もいそ
3 かせ給内にもさこそあらめと
4 御けしきあれとなにとかは
5 人のいつしかと思いそかれん
6 ことをとゝめんもいとをし
7 かるへきことそときこえあは
8 せ給をそこにはつゐの事
9 さこそはあらめと思なから
10 むねはいとゝふたかりてけし
11 きやかはるらんとおもふをつれ 」（五〇・ウ）

1 なくもてなして人のことを
2 のへさせ給はんもいとをしく
3 や侍らん此御事はいつもの
4 とかに侍なん権中納言みにそふ
5 かけにてさはくなれはわつら
6 はしくていそかるゝとそうけ
7 給はりしなと申給へはこゝにも
8 さおもふなり右おとゝひす

9 らんむすめこの御かたちには
10 ゐこそならはさらめそむわ
11 うたちてはなたかにきら〳〵 」（五一・オ）

1 しきさまにやあらんとをし
2 はからるゝはゝめのとよりほ
3 かにあたりにもよせすわな
4 くこそかしつくなれ身つ
5 からくゆる宮はらのやう
6 にやあらんとてわらひ給へは
7 このおもひかけさりしよひの
8 ほかけにはさまてたまのき
9 すにはみえさりしかとはなた
10 かはいとよくいひあて給えり
11 とほゝえまれ給をみしり給て 」（五一・ウ）

1 わかゝりしときかひはみつ
2 ねにせしかはさま〳〵なる人
3 をあまたみしかな人はありかた
4 き物そかしおもふさまなる
5 人にあふ事はいとかたきわ
6 さなりや故院のこと〳〵にはい
7 みしうおほしめしなからこ
8 のかたはあやにくにせいせさ

1 まはれていたらぬくまもな
2 かりしかはかくさま〳〵ゑさら
3 ぬ人あまた物し給しに
4 をしけたれてわすれしと
5 おもひしもをのつからありし
6 かともかひなくてこそやみにし
7 かとむかしの事おほしいてた
8 りわかくよりやむことなき
9 さまにさたまりぬるはおも
10 らかによき事なりひとり
11 あるはをのつからさもあらん」（五二・ウ）

1 こゝろもあくかれてかる〳〵し
2 くわるきことそなとの給て
3 かの御けしきありしふちの袖は
4 いとかたしけなき御ことにこ
5 そゝのゝちうち〳〵にあんない
6 きこえさせぬはひんなきこと
7 なりよからん日中納言のすけ
8 にほのめかし給へなとのたまへ

9 せ給てさいなみこゝのえのう
10 ちよりもたえ〳〵ゆるさせ
11 給はさりしかとかしこくぬす」（五二・オ）

1 しきよるのころもなりける
2 御こゝろさしはかたしけな
3 なからさはかりのことをうけ
4 とりきこえなんやなか〳〵な
5 めかるらんとてすさましけ
6 なる御けしきなれは心にい
7 るましきことなめりとひか
8 ひかしかるへきわさかなとおほ
9 すに物しけなる御けしき
10 なれはわつらはしけにてたち
11 たまふにも」（五三・ウ）

1 ほかさまにしほやくけふり
2 なひかめや浦風あらく波は
3 よすともとたゝくちすさみつ
4 つはゝ宮の御まへにまいり給へ
5 れはあつけにや此ころそいたく
6 やせてみえ給とて心くるしけに
7 おほしたるけしきあくまて
8 らうたけにみえ給おとの

9 はあなむつかしやありはつまし
10 き世中にさる事さえきかん
11 よときくにつけてそあつかは」（五三・オ）

9 さはかりのこるくまなくみ
10 あつめ給けんにおやと申な
11 からもすくれたる御おほえ 」（五四・オ）

1 ことはりそかしとみえ給夏や
2 せとはゑせ人のことくさかな
3 とかやかたへすゝしき風にし
4 たかはんもあしかるへきこと
5 かはなとかうしもいひをき
6 けんわたしもりにやとはまし
7 とゑみ給えるけしきのさと
8 こほれかゝるやうにし給へる
9 をめつらしからん人のやうに
10 わかき人〳〵めてたてまつる中
11 に中務といふ人みちのおく 」（五四・ウ）

1 のはてなるとなけきし人のあ
2 りしこそにくからねとひとり
3 ことにいふをしりめにみをこ
4 せ給ていかにそやのこりゆかし
5 きひとりことかなとの給をあ
6 なわひしきこえけるにやと
7 わふるさまもにくからすみ
8 わたし給殿のこの宮に御文

9 まいらせよとの給へるこそなを
10 さりことにてたに大宮のきゝ
11 給てあさましうめさましき 」（五五・オ）

1 ことゝむつかり給なる物を
2 さやうにほのめかしたてま
3 つりてはしたなめられた
4 てまつりたらんこそたゝ
5 ならんよりは心やましけれ
6 たゝさはかりの御けしきに
7 てそのよのめいほくかきり
8 なかりきかし中〳〵なる事
9 はいひいてしうゑもあはれ
10 とりとそおほされんかす
11 ならぬ人はすき〳〵しう 」（五五・ウ）

1 あるましきことゝこのまて
2 さりぬへからんかけのこ草の
3 露よりちか〳〵のしる人なき
4 たつねいてゝよすかともなれか
5 しさらすはまたいくよあ
6 るましきよにほたしなき
7 もよきそかしとて涙くみ
8 給へるをはゝ宮いろもたか

9 ひてたはふれにもゆゝし
10 きことなの給そいみしき 」（五六・オ）

1 ことなりともわか御心にこそ
2 ものうくおほされむことは
3 なにしにかましてはゝ宮さ
4 の給らん事あなかちにさ
5 のたまはせんを一日院のう
6 ゑのゝ給はせしことゝてかた
7 りしをかたしけなくきゝ
8 すくしてやとあんなりしな
9 とその給し内にまいるつ
10 いてにかのよりきの人はい
11 つくそとゝはせ給へはみをき 」（五六・ウ）

1 し随身こゝもとにさふらふ
2 と申せは又のひみ給しかはを
3 ろしこめて人ありけもなく
4 てさふらひしかはかたら人に
5 とひ侍りしかはなかとのかみ
6 のめなる人の家にてさふらひ
7 けりめのわらはともの宮仕人
8 にてあまた候ける中務のみ
9 やの姫宮の御めのとにてもさ

10 ふらひけりと申せはさやうの物 」（五七・オ）

1 のきあつまりたるをりのし
2 わさにや少将のめのとにやゆゝ
3 しく大納言のこせちにいて
4 たりしされ物にやとおほ
5 しやる中宮いてさせ給ぬ
6 れはみこさへうちつゝかせ給て
7 三条殿の御方にいとおほや
8 けしうきら〳〵しき御あり
9 さまなり内の御つかひ日ことに
10 まいりなとして殿もかゝる程は
11 こなたにをはします宮の御かた 」（五七・ウ）

1 ちありさまなとあらまほしう
2 てけたかうをかしけにてそ
3 物し給おほきおとゝの御かた
4 はなかのこのかみにてもとかし
5 はにておはすれとかゝるあつ
6 かひくさもち給はねは御あ
7 りさまひとつをいまめかしう
8 もてなし給てをしたちほこり
9 かなる御をきてにそをはしける
10 人よりけにもていてたる御物

11 このみなし給ていとわらゝかに 」（五八・オ）

1 にくからぬ御心さまなるへ
2 しかくさま〳〵にもてかし
3 つき給御ありさまともを
4 そうらやましくおほしける
5 中将の君はありしむろの
6 やしまのゝちよりはいとゝ
7 おほしあくかれまさりて
8 いかてなくさむはかりの人を
9 みてしかなとかゝらぬやま
10 なくしのひありきにこゝろ
11 いれ給めれと猶おはすて山 」（五八・ウ）

1 の月みる心ちし給ていかさま
2 にしてすこしもおもひやむわ
3 さもかなとわかこゝろなから
4 くらへくるしきまてなけき
5 わひ給えりせいりやうてんの
6 わたりにもひさしうなり給
7 にけれはもしひまもやとお
8 ほして春宮さまにまいり
9 給へるにれいけい殿よりいま
10 かへらせ給なりけり御らん

11 しつけてあなめつらしこゝ 」（五九・オ）

1 のへのうちなからもみえ給こ
2 とのかたきこそとうらみさせ
3 給へれはうちはへれいならすさ
4 ふらへはあつさの程はかく
5 まいりつかまつらてなんけにす
6 こしおもやせ給へるさまの久
7 しうみさりつるほとにた
8 を〳〵しくなまめかしさす
9 へてめてたきをわかき御心には
10 なつさまほしくおほさ
11 れてけちかくなれさせ給て
12 なに心ちのさのみあしかるへき 」（五九・ウ）

1 そおもひ給ことそあらんと
2 の給へはこれ御らんせよか
3 くやせさふらへはしぬへき
4 なめりとてさしいて給えるか
5 ひなとのしろくうつくし
6 けなるさま女もえかゝらしと
7 みえ給源氏のみやはかくや
8 をはすらんとあちきなく
9 よそへられてせちにひきよ

10 せられ給をあらむつかしあつ
11 くさふらふにとてひきしろひ 」（六〇・オ）

1 給へる御あはひいとをかしく
2 かくやせそこなはるはかり
3 おもひ給らんことをこそ心
4 えたれなかすみのしゝうの（イまねすときくまことにや）
5 まねし給なめりな人もさそ
6 かたりしおとゝもかゝれは
7 つれなきなめりいまこそ思
8 ひあはせらるれあなつれな
9 みなきゝにてたる物をゆ
10 かしけなかるへきわさかなと
11 たゝあてにの給はするをさて
12 はこゝろのうちしる人のあり 」（六〇・ウ）

1 けるにやたれけいしけんと
2 おほせとさらぬすき〳〵し
3 さをたに（イて）このまぬにありかた
4 くも思ひ給へりけるしのひ
5 やまかなとことはすくなに
6 まめたち給えるも猶いみし
7 きことゝ思ひけるけしき
8 なれはさらかの春のよの

9 みのゝくにやきかまほしく
10 おほえ給こゝにはなへたて
11 給そかたきことなりとも 」（六一・オ）

1 いとようなりてむかしとなつ
2 かしういひ給へはうちわらひ
3 給てなに事をかおもふ給え
4 む身のしろころもはかた
5 しけなきことゝけいし給
6 へと人のとふまてになりにけ
7 るわひしさ
8 我こゝろしとろもとろにな
9 りにけり袖（イ袖よりあまる）につゝみし涙
10 もるまておほしつゝけらる
11 なけきもけにしるかりけん 」（六一・ウ）

1 かしそのよもせいりやう殿
2 にわたらせ給ぬれはほいなく
3 てたそかれ時にいて給に二条
4 大宮のかたにやりいたしたる
5 女車のひきかへなとして
6 とをき程にみえたるに物み
7 のすこしあきたるよりまろ
8 かしらのすきたるあやし

9 とみ給にはやうやりすこ
10 しつれはあやしひかめかと 」（六二・オ）

1 おほす程にともなるわらは
2 へのもたる物やしるからん
3 此御ともの御随身みつけて
4 かや〳〵とをひとゝむるにえ
5 にけてひきとゝめられぬ
6 わかきおのこともものいたく
7 とかめかゝりてしたすたれを
8 かけ給えるはやむことなき
9 そうにこそをはすらめさは
10 あれともしはしをしとゝめて 」（六二・ウ）

1 あやにくにやりちかうるは
2 たそ〳〵とあらゝかにとえは
3 にん和寺のなにかしゐき
4 しの御車にてはゝうゑ物
5 へわたり給なりとわなゝき
6 いつるわらはのあれはいてさ
7 はけに尼君かとみんとて
8 すたれをひきあくるにほ
9 うしをりはしりてかほをか
10 くしてにくるをこの尼君
11 はなとにくるそとをひて 」（六三・オ）

1 とらえてのゝしれは御車と
2 とゝめさせ給てひきもてくれは
3 ありすかはたになきことを
4 いとわひしうおほされてせい
5 せさせ給へはにかしやりつ
6 車なりつる人みなにけぬれ
7 はうしかひわらはひとりをと
8 らえてとうにに和しの
9 なにかしゐきしと申人
10 なりとしころけしやうし
11 給へる人のうつまさにこもり 」（六三・ウ）

1 たまへるかあかつきいてさせ
2 給はんとて車ときこえ
3 させ給えりつるをこよひたて
4 まつらんとてまかてさせ給え
5 りつるにいかにせさせ給える
6 にかゝの姫君一人をぬすみ
7 たてまつらせ給てにん和しに
8 やかてとおほしの給はせつるに
9 このころは大くわんの御
10 と經にてさふらへはとを・くてうし 」（六四・オ）

1 ろめたかりなんほうしうち
2 たゝき給ほとに佛のにく
3 み給にやかゝるめをみ給をし
4 とゝめてしめやかにもやらせ
5 給はてとしころの思ひかな
6 ひていそき給程に女車と
7 そみるらんたゝとくやれ
8 とせめ給へはしにはしたか
9 へといふふみをそうの御あ
10 たりにとしころ侍るしる
11 しにはきゝえてはしらせ 」（六四・ウ）

1 侍つる也いまよりはさらに
2 さらにこのしにしたかひつ
3 かはれ侍らしといひつゝくる
4 さまをそろしうわひしと思
5 ひたりあはれのことやいかなる
6 姫君ならんならはぬことな
7 らはをそろしかりつらん
8 ときこえ給御ともの人〳〵い
9 みしうなけくけしきこそ
10 し侍りつれ人はみなにけ 」（六五・オ）

1 にけりこのしのゆくゑ
2 たつねてまかりなんいまは
3 なに事かその御房の人の
4 かりもまからんと申侍るを
5 いかゝつかうまつらんをはす
6 へき所はたゝ此大宮にこそ
7 わらはゝ申せとくち〳〵いと
8 をしかるをなにかはかゝる事
9 をしつるとにくみ給てさは
10 そのわらはをしるへにてかへ 」（六五・ウ）

1 りまかりてをこせよとの給
2 はするにわらはもくらきま
3 きれにけにけりわひし
4 きわさかな我こし所〳〵は
5 そこ〳〵とはきゝつれとう
6 しかひわらはもなくていかゝ
7 せんあえなん家ちかゝな
8 れはいまたつねあひなんつい
9 にしもかくれて候はんやは
10 きつらんといひすてゝまいる 」（六六・オ）

1 をいかなる人のわひしきめ
2 をみるらんと心くるしけれ

3 はありさまをもみんとお
4 ほしてかの車にのりうつり
5 給ぬこよひはかりは大殿ゝ
6 たいにくせまほしけれと
7 いみしき人なりともけさひ
8 きかけてはしりくるあし（ママ）
9 もとのゆゝしさおほしいつ
10 るにすこしはてふれてん」（六六・ウ）

1 かしとおほすにものきた
2 なくてあすかいにやとりとらせ
3 むこともかたらひにくゝおほ
4 しわつらへは御車かえしつか
5 はして御むまいてまいれとい
6 はせ給へは返ぬ物いふまし
7 き二三人はかり御とともにて
8 このをしへきこえつるまゝに
9 をはしたれは大宮おもてに
10 はしとみなか〳〵としてつね」（六七・オ）

1 にみ給所なりけり門もみ
2 なさしてうちたゝくに人い
3 てきてとふなりうつまさよ
4 りいてさせ給えるそとく

5 あけよといふなれはあか月
6 こそいてさせ給はめあやし
7 なんといふなれはいはかとい（イかてかとのいとはしく）
8 ふせう物むつかしきにかやり
9 火さへけふりあひたるいと物
10 むつかしけなり」（六七・ウ）

1 我こゝろかねて空にやみち
2 ぬらん（イにけん）ゆくかたしらぬやとのか
3 やり火ほいなくやおほ・ましさ
4 なとの給けはひありつる物ゝ
5 ゆすりはちのこゝちしてみゝに
6 あてゝほえきかけつるもその
7 時はものおほえすをそろ
8 しうしにいりたりつるに
9 いまはやう〳〵物おほゆる
10 にやまたこれもいかなる事」（六八・オ）

1 そとゆめの事にまとひてひき
2 かつきてふし給えるに車さし
3 よせたれは火あかくともし
4 てとし五十はかりなるおも
5 といてきてこよひはなといて
6 させ給えるそれいの御ことか

7 とまつむつかりてよりきた
8 れはこはやいとほいなき御
9 けしきなれは道のそらにて
10 たゝよひ給はんか心くるし
11 さになんをくりきこえさせ 」（六八・ウ）

1 つるかゝるしるへをわすれさ
2 せ給なよいかゝおほすとてひ
3 きうこかし給へるに火のかけ
4 にかみはつや〳〵としてうす
5 いろのきぬのなよゝかなるに
6 すゝしのひとえきて道すか
7 らなきわひけるにかへりて所
8 ところしろみたりひたいかみ
9 もいたうぬれたりちいさやか
10 にてらうたけなるけしき
11 ひとつ車をたにいかにそや 」（六九・オ）

1 おほしをとしめつるにうち
2 をきてかへり給はんことさ
3 すかにおほしなりぬさていか
4 かおほすかへれとやとまれ
5 とやとひかへてをろし給は
6 ねはいといとうわひたるこゑ
7 にて
8 とまれともえこそいはれね
9 あすかゐにやとりどむへき
10 かけしみえねはといふけしき 」（六九・ウ）

1 もみつかけみあらはさらん
2 もくちをしうそありぬへき
3 やとりして猶あすかゐに
4 かけもみんみまくさかくれ
5 人とかむとも御むかへに人まいる
6 程まてはとてすへりをり給
7 ぬるをあなみくるしとわ
8 ふるけしきをかしおとゝは
9 なに人そなをたにきかはや
10 といひわつらひてしやうし 」（七〇・オ）

〈付記〉
本稿をなすにあたって、九州大学附属図書館より、資料の閲覧及び翻刻掲載の御許可を賜りました。記して心より御礼申し上げます。

（えん　しょうしょう・本学大学院博士後期課程）
（ちょう　ぐ・本学専門研究員）